



杉山 盛行 水産部門（水産土木） 勤務先：北海道開発局 札幌開発建設部

TEL (011)611-0111 E-mail: sugiyama-m22ab@hkd.mlit.go.jp

道東の遠軽町に生まれ、昭和 57 年から北海道開発局に勤務しています。利尻島を振り出しに札幌、網走等で「港関係（港湾・漁港・空港）」の計画や工事に携わり、平成 8 年から出向した水産庁時代に水産部門で技術士を取得しました。「俺にはやっぱり海が似合うべき！」ということで北方海域技術研究会に参加していますが、ふと気づくと「空の港」が経験年数の半分になってしまい（現在も新千歳空港と丘珠空港を担当）、名刺を見て「水産の技術士で空港担当ですか？」と聞かれるたびに、説明するのに一苦労しています。

さて、私の職場でも危機管理・意識の重要性が毎日のように話題になっていますが、これと技術力の低下を併せて議論する際に、ともに「現場から学ぶ」という基本姿勢の欠如が問題ではないかとの声が多いです。一方、社会資本整備においても、市民とともに考え協働で地域づくりを進めることが強く求められており、これらを考え合わせると、「技術者外（現場、地域）へ出よ」という言葉が、私たちのこれからの大きなテーマになるのではないかと思います。

現在、仲間の技術士の方々とともに、北海道の日本海沿岸に活力を取り戻すための勉強をしています。名刺に書いた仕事と違和感のない部門の技術士にもチャレンジしたいと考えております。陸に上がったカップではなく水陸両用のカップを目指して一層の研鑽に励みたいと思いますので、よろしくお願いします。



次号は、根本任宏さん（建設部門）



高井 和彦 農業部門（農業土木） 勤務先：㈱アルファ技研

1992 年（平成 4 年）に現会社に入社し、北海道の農業農村整備に関する業務に携わって 13 年目となります。私の専門分野である農業においては、食料自給率の低下、食料の安全・安心の確保、農業従事者の高齢化、環境負荷の低減等取組むべき課題が多くあります。この課題の解決には、農業関係者のみではなく日本に住む 1 人 1 人がこれらの課題を理解し取組む必要があります。私達農業部門の関係者がその知識をわかりやすく提供していく必要があるものと考えています。

現在は、その知識を多く得るため積極的に農家や JA 等に出向き、現場での意見の聞取りや作物の状況を見て業務に反映させるよう努力しています。今年の春には、農家から水稻の苗を頂き米栽培に挑戦中であり、現在稲穂が頭を垂れ豊作を予感させます。米は、その字から八十八の手間がかかると言われますが、まさにそのとおりであり休日は幼稚園になる子供と庭で米や野菜、花を育てその苦労や喜びを味わっています。

このような苦労や喜びを都会の人々が味わうことができるような環境の整備が、これからは必要であると考えています。最近、ベランダやビルの屋上を利用した屋上ガーデンを設置しているものがありますが、これらをもっと普及させたり、小中学校への体験ほ場等の整備を行って、農業と身近に触れ合えるような環境を整えていくことも重要と考えています。今後は、このような取組みの一端を担うことができばと思っています。



次号は、古川武志さん（建設部門）